

わ く わ く

11月号



本 だ な



えほん

『 アンドルーのひみつきち 』

ドリス・バーン／文・絵 千葉茂樹／訳 岩波書店  
ものづくりがだいすきなアンドルー。いえじゅうのものをざいりょうにつかうので、かぞくにはおこられてばかり。アンドルーはいえをとびだして、じぶんだけのひみつきちをつくることにしました。

1・2年生

K913 『 テレビのずるやすみ 』

村上しいこ／さく 長谷川義史／え PHP 研究所  
けんいちのいえのテレビが「一日、ずるやすみをして、たのしみたい」といいだしました。けんいちは、しかたなく、ななちゃんのたんじょう日パーティに、テレビをつれていくことにします。



3・4年生

K913 『 サッカク探偵団 <sup>たんていだん</sup>  
あやし月夜の宝<sup>つぎよ</sup>石<sup>ほうせき</sup>どろぼう 』

藤江じゅん／作 ヨシタケシンスケ／絵 角川書店  
ホテルのパーティで、ダイヤのゆびわがぬすまれる事件がおこりました。カケルは、犯人<sup>はんにん</sup>が目のサッカクをつかってにげたことに気づき、探偵団<sup>けんていだん</sup>を結成します。

5・6年生

K913 『 月夜に見参! 』 <sup>つきよ けんざん</sup>く<sup>こざくらにんぼうちやう</sup>のいち小桜忍法帖 1

齊藤洋／作 大矢正和／絵 あすなろ書房  
あるときは振袖<sup>ふりそで</sup>の美少女、あるときは問屋<sup>とんや</sup>で働く少年として、江戸<sup>えど</sup>の町で暮らす<sup>くらす</sup>忍者・小桜<sup>こざくら</sup>。ある夜、子どもが誘拐<sup>ゆうかい</sup>されるのを見た小桜は、事件を追ううちに、なぞの忍び<sup>しの</sup>に狙<sup>ねら</sup>われるようになります。



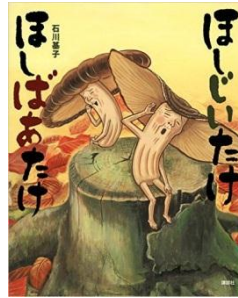
えほん



『 さあ、しゃしんをとりますよ 』

ナンシー・ウィラード／文  
トミー・デ・パオラ／絵  
福本友美子／訳 光村教育図書

えほん



『 ほしじいたけ  
ほしばあたけ 』

石川基子／作

講談社



『 いっぽんの木のそばで 』

G. ブライアン・カラス／作 いしづちひろ／訳 BL 出版  
むかし、男の子がどんぐりを土のなかにうめました。  
どんぐりは大きくなり、オークの木になりました。  
オークは、男の子がひっこして、いなくなっても、  
町のようにがかわっていくのを、みまもります。

えほん

K815 『 みんなでつくる1本の辞書<sup>じしよ</sup> 』

飯田朝子／文 寄藤文平／絵 福音館書店

えんぴつを1本と数えるように、「本」は細くて長いものを数えるのに、よくつかえます。では、野球でヒットを1本と数えるのはなぜでしょうか？「本」と数えるものに、どんなものがあるか見ていきましょう。

ちしきの本



K383 『 につぽんのおにぎり 』

写真絵本おにぎり風土記』白央篤司／著 理論社  
みんなが大すきなおにぎり。茨城ではなっとう、福岡ではめんたいこなど、その土地ならではの、おいしい具をいれて、つくられています。富山を代表するのは、どんなおにぎりだと思いますか？

ちしきの本

K457 『 イーダ<sup>うつく</sup> 美しい化石<sup>かせき</sup>になった小さなサル<sup>さる</sup>のものがたり 』

ヨルン・フルム／文 トルシュタイン・ヘレヴェ／文  
エステル・ヴァン・フルセン／絵 河野礼子／監修  
遠藤ゆかり／訳 創元社

4700万年前に生きていたサルの化石が見つかりました。イーダと名づけられたそのサルをしらべてみると、けがをした女の子だとわかります。イーダは、どんな生活をしていたのでしょうか。

ちしきの本



としょかんのまどぐちには、くみだてると本になる「わくわく本だな」もあるよ。

ホームページもみてね！〈編集・発行〉富山市立図書館 富山市西町5番1号 電話 076-461-3200